

就任のご挨拶



理事 出口 宝

このたび、沖縄県医師会理事を拝命いたしました、もとぶ野毛病院の出口宝です。宜しくお願ひ致します。

はじめに、この場をお借りして自己紹介をさせて頂きたいと思います。私は京都府亀岡市の出身で、明智光秀の居城であった亀山城跡を遊び場として過ごしました。昭和58年に埼玉医科大学を卒業して埼玉医科大学第2外科に入局し研修医をスタートしました。その修了が近くなった頃、琉球大学第1外科への派遣のお話があり、希望して昭和60年に西原に移転間もない琉球大学第1外科へ赴任しました。当初は2年間のローテーションの予定でしたが、初代正義之教授が退官されて2代目武藤良弘教授が教室を引き継がれた時に正式に入局しました。入局後は消化器外科の研鑽をしていましたが、乳腺・甲状腺外科グループの立ち上げに加わり、その後は主に乳腺・甲状腺外科を担当しました。そして、平成17年には名桜大学で人間健康学部スポーツ健康学科と看護学科開設のため教授に着任し8年間勤めた後、平成25年から現在のもとぶ野毛病院で北部の地域医療に従事しています。

私と医師会とのかかわりは、琉球大学に赴任後直ぐに入会したものの当分の間は医学会総会や研修会などへの参加のみでした。しかし、平成23年3月11日に一変しました。東日本大震災における医師会の災害救助医療班活動に参加させて頂くこととなり、医師会事務局の方々と準備を開始して、派遣、そして記録集の編纂まで貴重な経験をさせて頂きました。その時、県医師会という組織と事務局の方々の姿を目の当たりにしたことがきっかけとなり、医師会の

活動へ参加するようになりました。東日本大震災における活動が終了した後は、災害医療委員会の立ち上げやJMAT研修、訓練、そして平成28年熊本地震や令和6年能登半島地震のJMAT派遣などに従事させて頂きました。また、平成28年からは北部地区医師会理事も務めさせて頂いています。

平成になってからは次々と災害が発生し、新型コロナウイルス感染症のパンデミックもありました。そして、近い将来には大規模災害や新興・再興感染症の流行が予測されています。加えて台湾有事も危惧されています。目前では救急医療の逼迫、看護師等の医療介護人材の不足問題、また、医師会内に目を向けると入会率の低迷と組織力強化など様々な課題が山積しています。さらに、2040年には高齢者人口がピークを向かえる一方で生産年齢人口は急減するため、社会保障制度の大きな変化も想定されます。近い将来にはパラダイムシフトが起こるかもしれません。しかし、これまでも、医師会は「医道の高揚、医学及び医術の発達並びに公衆衛生の向上を図り、社会福祉を増進すること」を目的とした学術専門団体としてビジョンを示し、その時々課題に取り組んできました。そして、これからもその時代に即して医師会事業の3本柱である“地域医療”、“学術”、“医政”に積極的に取り組み、県民の保健医療福祉の向上に寄与することには変わりはないと思います。

まだまだ未熟ではありますが、新執行部の一員として職務を全うできるよう諸先輩方のご指導を頂きながら一層の努力を致す所存ですので宜しくお願い申し上げます。